

港珠澳大橋とグレーターベイエリア

珠海と香港・マカオを結ぶ「港珠澳大橋」が開通 グレーターベイエリアでの広域観光促進に期待

全人代で地域発展計画に位置付け

広東省の珠海市とマカオ、香港を結ぶ世界最長の海上橋「港珠澳大橋」が10月24日に開通しました。全長55キロに及ぶ港珠澳大橋は、マカオを経由して珠海と香港国際空港があるランタオ島とを繋ぐ巨大プロジェクトとして、1000億円以上に及ぶ予算が投じられています。

10月23日に開かれた記念式典には、中国の習近平国家主席も出席し、広州や深センを含む中国本土の広東省と香港、マカオの連携を深める「グレーターベイエリア」構想をアピールしてい



「港珠澳大橋」の開通に先立って斬新なデザインの列車が走る香港／広州間の「広深港高速鉄道」も全線開業しており、自動車産業の中心地である広州やハイテク企業が集まる深センと金融・物流センターの香港を結ぶグレーターベイエリアの交通インフラ強化は、広域観光促進も一気に加速させることになりそうです

ます。

中国駐東京観光代表処の王偉首席代表によると、陸路で約4時間かかっていた珠海と香港の所用時間は約45分に短縮され、フェリーで約1時間だったマカオ／香港の間も約30分で往来できるようになったとのこと。

「9月には香港と広州を結ぶ『広深港高速鉄道』も全線開業したばかりで、ヒト、モノ、カネの結びつきを強める交通インフラの充実により、金融や不動産といった分野に加えて、観光の分野でも大きな恩恵がもたらされることになる（王首席代表）

グレーターベイエリア構想は、広東省の広州や深センなど9市に香港とマ

カオを加えた11都市が対象地域となっており、2018年3月の全国人民代表大会で地域発展計画に位置付けられています。

「全域観光」を象徴する取り組みに

中国 国務院も

2018年3月に発表した「全域観光の発展促進に関する指導意見」の中で、観光を中心とした地域における経済社会の協調的発展を目指す考えを表明。

中国文化・観光部の李金早副部長は、「大衆観光時代の到来に伴う中国観光業発展戦略のスタート」と強調しました。

港珠澳大橋の開通から1週間後の11月1日から4日間にわたり、東京丸の内の商業施設「KITTE」で開催されたグレーターベイエリアの情報を発信するイベント「香港ウィーク2018 Greater Bay Area Showcase」は、大手旅行会社のトップなど業界関係者約150人を集めてセミナーとレセプションも実施。イベントの開幕式には、香港特別行政区のキャリーラム長官をはじめ、広東省文化観光部のツェン・インルウ副部長、マカオ観光局のマリア・ヘレナ・

デセナラエルナンデス局長も出席して、地域間の連携強化を印象づけました。王首席代表は、「全域観光に基づく観光公共サービスの改善が地域の観光業底上げと競争力強化につながる」と説明。

全域観光の要件として、「単一の観光スポット建設管理からエリア全体での観光総合サービスへの転換」という考え方が掲げられていることに言及し、「グレーターベイエリア」での地域間連携は「全域観光」を象徴する取り組み」と期待を示しています。



2010年に世界自然遺産に登録された広東丹霞山



広東料理が発展した広州は「食」の中心地



越秀公園の「五羊石像」は広州のシンボル

中国駐東京観光代表処